

## Part 1

## Office Excel 2003

## データの編集／加工がますますカンタンに

Excel 2003で強化されたポイントは4つあります。

それぞれは地味ですが、実際に使用してみると、その強化によってもたらされる恩恵に驚くかもしれません。

## 4つのポイント

おそらく業務アプリケーションの中で、使用したことのないユーザーはいないといっても過言ではないくらい、あちこちで活躍しているのがExcelではないでしょうか。

2003で強化されたポイントは以下のとおりです。

- ・スマートタグ機能
- ・統計機能
- ・XML関連機能

これら4つの機能のうち、まずは「スマートタグ」と「統計機能」についてみてゆくことにしましょう。

## スマートタグ

スマートタグ自体は前バージョンのOffice 2002でも大きなトピックのひとつでした。これは、たとえば入力した名前からメールアドレスを検索する際にOutlookの住所録を利用する、というように、プロダクトを越えた連携をスムーズに行なえるようにしたものです。

この機能が強化されたことで、より複雑で詳細な情報（郵便番号から住所の呼び出しや電話番号による名前と住所の検索など）を提供するスマートタグを、ごく簡単に選択できるようにな

りました(図1・2)。さらに、複数のスマートタグのアクションをスプレッドシートの特定のコンテンツに関連付けることもできるため、そのセルにマウスが移動すると、スマートタグアクションを表示させ、すばやく必要な処理を行なうことが可能になったのです。

## 統計機能

シートに入力された数値データをさまざまな形で提示するための統計機能も強化されています。なかでも以下の4点がポイント。

- ・共直線の検出
- ・偏差の自乗の和の計算
- ・正規分布
- ・連続確率分布関数

## XML関連機能

もともとExcel 2002からXML対応をうたっていましたが、2003ではその機

能がますます充実してきました。これは、XMLの標準化が進んだことで、インターネット上の情報をスムーズにインポートし、使い慣れたExcelで加工／編集し、XMLフォーマットでエクスポートし、配布する必要が出てきたからにほかなりません。

ここで注意したいのは、単に読み取り／書き出すだけであれば、従来のExcel 2002でも問題ないのですが、ここに「加工／編集」という作業が加わっていることです。

今回の機能強化は、この「加工／編集」に力点が置かれているといえます。

たとえば、ユーザーが定義したスキーマが適用されたXMLのデータの表示と保存。スプレッドシートに対応付けることで、すばやくXMLデータにアクセスでき、同時に更新(挿入／削除)も容易になりました(図3)。

また、XMLのスキーマやデータツリーの構造は作業ウィンドウに表示され、このウィンドウから必要なスキーマを

図1：Office XPのスマートタグも使用可能

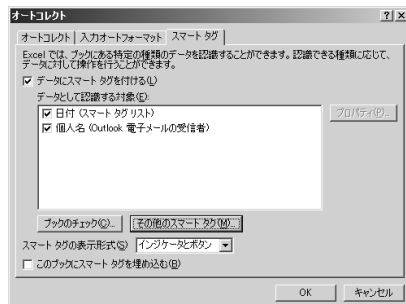


図2：スマートタグで地図情報や天気情報を呼び出す

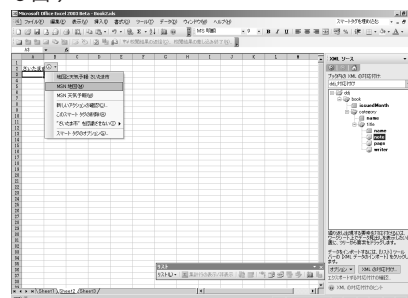
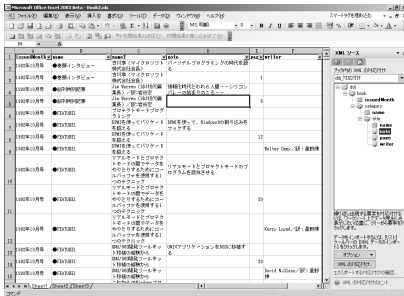


図3：データの更新も容易



ドラッグ&ドロップするだけで、データのマッピングが行なえます (図4)。

これらの機能を利用することによって、SQL Serverはもちろん、XMLへの対応が進んだAccessといったデータベースの各種データを整形し、必要なデータだけを見やすく理解しやすい形で表示させることが容易にできるようになったわけです。

また、これまでは、表形式のデータをインターネット上で展開/提示するには、七面倒くさい手順や方法を取らざるを得ませんでした。このようにXMLのデータを表形式で扱えるため、このデータをそのままインターネットを介して、たとえば社内に展開/提示することも、簡単にできるようになりました。

図5：Excel 2003のVBA情報

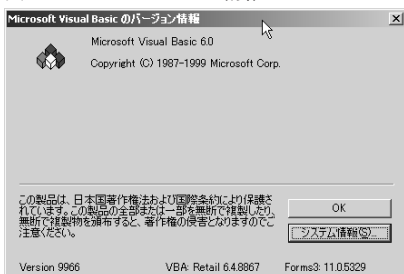
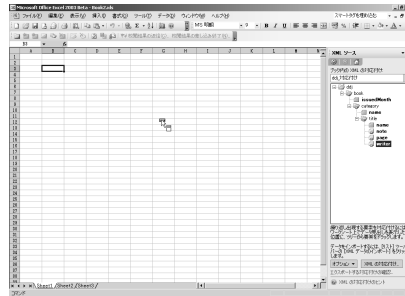


図4：データのマッピングも簡単に



## Visual Basic for Applications

さて、Excelのバージョンアップ、といえば当然気になるのがVisual Basic for Applications (VBA) のバージョンアップ具合でしょう。

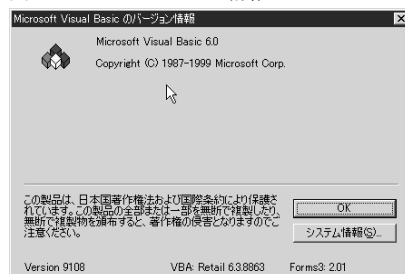
結論から先に言ってしまうと、Excel VBAに大きな変更はありません。

図5を見ていただければわかるように、メジャーバージョンは「Visual Basic 6.0」でインナーバージョンは「9966」、VBA Retailは「6.4.8867」ですから、Excel 2002にくらべ、ごくわずかなバージョンアップしか行なわれていないことがわかります。

ちなみに、Excel 2002 VBAのバージョン情報は図6になります。

当初、.NETに対応して.NET Framework上でも動作するような変更が加え

図6：Excel 2002のVBA情報



られるかもしれないというウワサがまことしやかに流れていましたが、現状では.NET Frameworkがなければ動作しない、というようなこともありません。

これまで使用していた各種マクロやExcelに特化したプログラムも (図7)、これまでどおり動作します (ということは、先日、世間を賑わせたウィルス/ワームに感染する可能性もあるということです)。



今回のバージョンアップは、おそらくXMLへの対応強化と、Office 2002時に加えられたさまざまな機能のチューンアップが、相当なされていた状態のものと思われます。ユーザーインターフェイスもWindows XPに完全に対応したほか、内部的には少なくとも.NET Frameworkへの対応を見据えた、なんらかのフックは仕込まれているはずで

そのわりに、CPU：Celeron 300 MHz/RAM 256MBの、今や2世代くらい前のマシンでも、それほどストレスなく起動し、作業が可能なのだから、チューンアップはかなりよい方向に出ているといえます。

図7：昔々のマクロもちゃんと動作する

